

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

画像バイオマーカーの認知症診療への活用に向けて

先進医療データ管理室

武田 章敬 室長

2020年1月9日(木) 16時00分～
第1研究棟2階大会議室

分子イメージングを初めとする脳画像検査の技術の進歩は、認知症を来す神経疾患の診断と病態把握、それに基づく適切な治療に大きな役割を果たすようになってきている。

現在、当センター脳機能画像診断開発部の加藤室長が中心となって行われている SAT (Study on dementia with Amyloid and Tau PET) では、MRI、脳糖代謝 FDG-PET, PiB アミロイド PET, THK-5351 タウ/アストログリオシス PET を用いてアルツハイマー型認知症やその他の認知症を来す神経疾患の診断と病態解析を進めている。

本報告会においては、SAT の対象症例を中心に臨床症状と脳画像検査、その他の検査、臨床経過、治療への反応性等から最も考えられる疾患名を推定し、その疾患に関する既知の神経病理学的知見をもとにその画像所見が何を意味しているかを明らかにする試みを提示したい。また、この試みを通じて脳画像検査を臨床で実際に活用する方法と今後の研究の方向性について議論したい。